

独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO 登別病院通信

Japan
Community
Health care
Organization

発行日 2019年12月

NO.9



今月の表紙 地獄谷

今月号の内容

- JCHO登別病院 新病院見学会を行いました
- 「整形外科症例検討会」に参加して ● 室蘭支部 看護研究学会に参加して
- 「ハラスメント防止・メンタルヘルス研修」に参加して
- 職業体験学習を担当して ● JCHO地域医療総合医学会に参加して



JCHO登別病院 新病院見学会を行いました

事務長補佐 越 野 敬

9月26日17時30分から、新病院着工後初めての当院職員を対象にした新病院の見学会を行いました。当初は30人位の参加者を見込んでおりましたが、終業後にもかかわらず、その数を大幅に超える56名の参加がありました。

9月の時点では、建物はどこもコンクリートむき出しで、工事器材なども所狭しと積まれた状態ではありましたが、部屋の仕切りはある程度出来ており、外来や病棟などの部屋の広さを少し感じる事ができました。見学会に参加した職員からは、「思った以上に狭い」、「ここに何を置こう」と、それぞれが

感想を持たれたと思いますが、病院が新しくなるという実感が湧いたのではないのでしょうか。

現在、新病院の建築工事は完成まであと半分程度までに進んでおり、内装や配管工事、外構工事へと進んできております。新病院の移転に向け、心は弾むところではありますが、これから引越の準備等で忙しくなってくるとは思いますのでよろしくお願いいたします。

内装工事などがほぼ終了する、2月から3月には、もう一度見学会を行う予定でおります。今回の見学会に参加できなかった方も是非参加していただきたいと思います。



「整形外科症例検討会」に参加して

1-2病棟 西谷 洋美

11月21日、当院にてJCHO登別病院整形外科から3例、登別白老消防から1例ずつの計5例で第3回JCHO登別病院・救急隊連絡会「整形外科症例検討会」が行われました。

当院の小澤診療統括部長が座長を務め、発表された5症例は、骨折の症例でした。レントゲンやCT画像、疾患の統計なども紹介されており、よりわかりやすく、今後もさらに骨折の患者数の増加を予測できるものでした。そこで予防医療が重要になってくると感じ、看護師として何ができるかを改めて考える機会となりました。

症例検討を聞いていく中で感じたことは、「医師、消防隊も患者にとって何が一番か」ということを常に考えているということでした。医師は、疾患の予後をふまえた上で、患者の年齢や職業などの生活背景も考慮しながら、今後の生活への影響が最小限となるように治療方針を決定していること。また、消防

隊は、受傷直後に関わるため、対象者の症状や訴えからどのような疾患が予測できるのか、救急車という限られた環境の中で、どのように体位を整え搬送することが患者にとって一番安全安楽なのかを、常に考えていることが伝わってきました。

私たち看護師も常に患者にとって何が最善なのかを、その時の症状や状況に応じて考えながら看護しています。

症例検討会に参加することで、医療に携わる者として、患者にとって何が一番なのかという共通の思いがあることを再確認できました。来年度には病院が移転することで、温泉街からは離れてしまいますが、今以上に地域に寄り添いやすくなると思います。共通の思いを大切に、JCHO病院のキャッチフレーズ「安心の医療を支えるJCHO」を忘れずに消防隊の皆さんとも協力していきたいと思えます。





室蘭支部 看護研究学会に参加して

1-2病棟 池田 麻生

今回、室蘭支部の「看護研究学会」に参加させていただき、様々なテーマの看護研究を聞くことができました。今後、自分が看護研究など取り組む上で、とても良い学びとなり、良い機会となりました。

当院からの研究発表では、1-2病棟の平看護師が「摂食嚥下困難患者への口腔ケア」について発表されていきました。口腔ケアによる刺激が、身体機能への回復に結びつくことを検証しており、臨床で活かせる内容であったと感じました。また、今回一番印象に残った発表は、「地域包括ケア病棟における現状と病棟看護師の今後の課題について」のテーマでした。当病棟にも地域包括ケア病床があるため、他の病院での現状を知ることができ、とても興味深く感じました。自宅復帰を目指し、地域包括ケア病床へ入院された患者様の

中には、認知症の患者様、同居者やキーパーソンとなる介護者側の問題など、様々な要因で退院後の療養先を変更しなければならなく

なった患者さんも多い状況です。地域性や、高齢化社会の現状などの要因もあると思いますが、他の病院でも同じ状況であることが分かりました。

当院は「地域の医療機関と連携を密にし、医療と福祉を推進していく」ことを病院理念としながら、地域医療・地域包括ケアの要として地域住民のニーズにお応えできるよう取り組んでいます。

医療者側と患者・家族、それぞれの立場と思いを共有し、地域を含めた他職種とのカンファレンスの充実を図るなど、地域連携を密にしながら、病院全体で患者さまに寄り添った退院支援・調整を行うことができるよう関わっていくことが、今後の課題だと私自身も実感しました。





「ハラスメント防止・メンタルヘルス研修」に参加して

地域連携室 秋葉裕子

令和元年9月6日 JCHO本部主催で行われた「ハラスメント防止・メンタルヘルス研修」に参加させていただきました。全国のJCHO関連施設より、約60名の方が参加されました。

研修では、近年のハラスメントの多様化問題や、メンタルヘルスクエアについての事案を用い、グループワークを交えながら行われました。

2007年以前と比較し、最近のハラスメントは31種類に及ぶことを知り驚愕しました。また、加害者が気づかない内にハラスメントとなる、《グレーゾーンハラスメント》について、知識を深めることができました。

職場におけるハラスメントは、労働者の能力発揮を妨げるとともに、社会的評価を著しく低下させることにもなりかねない問題です。ハラ



スメントが一旦発生すると、職場内では以前のような関係を再度構築することが困難となったり、被害者側にはとにかえしのつかない傷を負わせることとなります。このため、職場におけるハラスメントは予防・防止が非常に重要と言えます。

ハラスメントを起こさないためには《グレーゾーン》等に対して、常日頃より、職場・職員間で話し合い、共通認識を持つこと、お互いに理解し合うことの重要性を再確認しました。



職業体験学習を担当して

2-4病棟 小林 美喜枝

10月11日(金)登別地域の中学2年生の4名を迎えて職業体験学習を実施しました。職業体験学習は『実際に職場で勤務する人に触れ合い、仕事を体験することにより、働くことの大切さや、厳しさなどを考える機会とする』ことを目的に行なわれています。地域社会のさまざまな事業所で生徒達に職業を体験させる教育課程で、当院でも毎年受け入れています。今年は、女子3名男子1名が参加し、学生さんは、「看護師は人の役に立てる仕事なので実際を見てみたい」、「祖母が看護師なので興味があった」、「動物病院の看護師になりたい」、「看護師の仕事も勉強したい」と医療や看護職に興味を持たれての参加でした。

当日は来院後、白衣に着替え、病院長の挨拶、看護部長より病院の各部署の役割と看護についての説明を受けました。その後、病院内の見学をし、各部署の担当者より職種の役割等の説明を受けました。

職場体験は回復期リハビリ病棟での看護体験

を実施しました。看護体験を担当する看護師より、「病棟における看護師の仕事内容」の説明を受けたあとは、感染防止の基本となる手洗いを実施しました。次に実際に患者さんの病室へ行き、挨拶・自己紹介をしてから、車いす搬送の介助を実施しました。はじめは緊張した面持ちでしたが、患者さんからは「大丈夫よ」という声に安心してしっかりと介助が行っていました。足浴の体験では、患者さんから「みんな経験した？気持ちいいよ。ありがとう」という声をかけて頂き、和やかな雰囲気の中、体験学習を行っていました。その他にはシーツ交換や患者さんへの食事の配膳、学生同士で血圧測定の体験を実施し終了しました。体験終了後には笑顔で病院から帰られる姿がとても印象的でした。

短い時間ではありましたが、今回の職業体験学習で患者さんとのふれあいを通し、働くことの大切さや、看護師の仕事を少しでも理解し、看護への関心を深める機会になればよいと思いました。



JCHO地域医療総合医学会に参加して

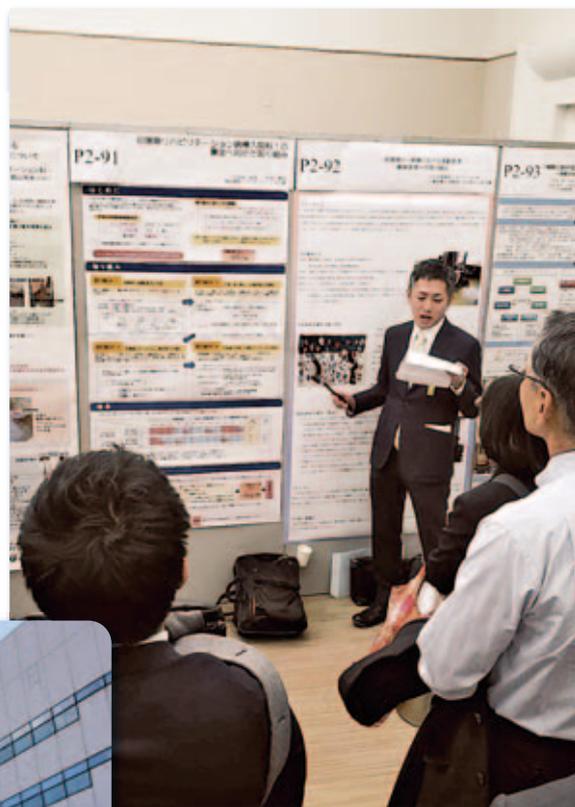
リハビリテーション室 主任作業療法士 池田 祐志

11月1日と2日の二日間、横浜で開催されたJCHO地域医療総合医学会（以下、JCHO学会）に参加してきました。JCHO学会は今回で5回目となり、前年まではJCHO本部を中心に品川で行われていましたが、今年は「パシフィコ横浜会議センター」の会場で開催されました。丁度ラグビーワールドカップ決勝戦の地での開催ということもあり、会場内外いずれもたくさんの方で賑わっていました。（来年は熊本での開催となるそうです。くまもんがゲストに来ていました。）

学会テーマは『士魂商才』。武士の精神と商人としての抜け目ない才能を併せもっていることという意味らしく、会長講演でも同タイトルで自立経営と正直（自律した）な医療の提供（病院運営）が大切という内容のお話を聞くことができました。学会参加者は、おおよそ2,600名と大盛況で、どのセッションも多くの参加者で埋まっており、JCHO学会員の皆さんの熱気が伝わってきました。当院からは、口演発表とポスター発表それぞれ一題ずつ発表しました。当院の日ごろの頑張りを少しでもアピールできたのではないかと思います。

最後に、今回多くの施設・職種の方の取り組みやアイデアを直に聴く機会をいただき、JCHOのモチベーションの高さに驚いたとともに、良い刺激となって自分も頑張ろうと思えるような充実した二日間でした。

向かって左側の写真は、会場となったパシフィコ横浜会議センターです。とても近代的で広くて綺麗な会場でした。そのとなりの写真は私のポスター発表時の様子です。



JCHO 登別病院のご案内

診療受付時間 8時30分～11時30分
 診療開始時間 9時（脳神経内科9時30分）～

●外来診療担当医

		月	火	水	木	金
整形外科	午前	オザフ 小澤 ケイチ 慶一	オザフ 小澤 ケイチ 慶一	エザキ 江崎 カツキ 克樹	オザフケイチ (予約) 小澤慶一 (10時迄)	エザキ 江崎 カツキ 克樹
	午後	エザキ 江崎 カツキ 克樹	タシロ 田代 エイジ 英慈	タシロ 田代 エイジ 英慈	シライシ 白石さくら	タシロ 田代 エイジ 英慈
外科	午前	/		シライシ 白石さくら	/	
内科	午前			ツカハラ 塚原 ダイスケ 大輔		
脳神経内科	午前	ヨコカワ 横川 カズキ 和樹	/		/	
	午後	サイトウ タロウ 齋藤太郎 (月1回)				
泌尿器科	午前	/		/		ナイカ 内科・整形外科 セイケイゲ カ
健診センター	午前					イトウ 伊藤 ヨシオ 美夫
	午前	胃カメラ		胃カメラ		婦人科検診 (毎月最終)

●診療体制が変更となる場合があります。その際は院内告知やホームページ上でお知らせします。

編集後記

皆様からのご協力をいただき第9号の広報誌を無事に発行することができました。ご協力頂いた皆さまに深く感謝いたします。先日、新病院の見学会を実施しましたが、いよいよ完成に近づき、次回号では新病院の特集を企画いたしますのでご期待下さい。



<各交通機関>

- JR 登別駅下車 (特急列車停車) 登別温泉行きバス (病院前下車徒歩2分)
- 札幌 - 登別温泉高速バス (病院前下車徒歩2分)
- 道央自動車道 : 登別東インターより7分



独立行政法人地域医療機能推進機構登別病院

〒059-0598 登別市登別温泉町133番地

TEL(0143)84-2165 FAX(0143)84-3206

<http://noboribetsu.jcho.go.jp>

main@noboribetsu.jcho.go.jp

出版責任者 院長 伊藤 美夫
 編集長 事務長 山田 俊幸